

につさあむびてはやくあひてあるへこと公奏
 乃為よ樂とささうてなううむさゆふせと
 即ち又初よのそそそなむつらよとてはもと
 あらき種なるをさふるにそとゆへいとい
 つよそそに付るがとるあもそそれゆを
 初末ふうくうあーのゆふあうよりいさこ
 のつにくえとてはしたる種ううとあさほ傳のか
 こにほそそなむつあふぬあふとてはねとあ
 うる老のゆあふれうらにふひいてらる事とも
 あうてふとさふらうのあふりゆいさうてあ

わあくくはうい

まほうと物ふ付あふあはる事あうそそあ
 里てあふくここのそそなむつらふる事あう
 一ハ清越二ハ龍樂三ハ式備四ハ十種供養五ハ人
 おは教る事六ハ人お習る七ハ調おれうい
 ともめ八ハ樂のあひあふ九はるのと十ハ物
 秘と人さやう十一ハ物あふひれま十二ハ物
 乃事十三ハ樂あふ
 中一御極よ又あうくつら一清暑堂の清神樂二
 胡觀の幸之主上清元振田大は八郷食五うと

六后家の侍産れぬ七都七東宮の啓略時表里
子れふ十日百日おまゝれにふりてかともいふ
とふりて同事也

朝親の幸法遊やうくあれどもとよりさ面をやり
た同く半也ふ献とらうては極の具法金比巴華
和琴箏篋れきに箏横箏箏箏拍子とて屋く人
不作人の在籍に臨く次第に立て後始ハ雙調く子
れいたす川箏箏箏箏箏箏とらうておら比巴
搔を^{ハイ}いふ搔とあつとふハ一クク上上ク上上
是也世ふいふ始とらうてん七搔といふ

調ふ^ハいふハあもいふ^ハいふハ調ふ^ハあも^ハ比巴と
あも^ハ搔を^{ハイ}いふにあら^ハいふ^ハあも^ハ搔を^{ハイ}
故お書読と^ハいふて清所作と執せとせに^ハあも
によつてはあも^ハやと^ハあも^ハた^ハあも^ハ搔を^{ハイ}
は^ハあも^ハいふ^ハあも^ハて^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハ
一結ふ^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハ
上上ク上上と^ハいふ^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハ
と^ハいふ^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハ
事^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハ
み^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハあも^ハ

やうもねハありたりねえハあゝさう也との事くらハ
 さ屋うにさゝすも作ありさう後調子同ハ比巴
 筆ふふふとあしせしめし第一調子をくらハ
 比巴ハあつてあつて調子れと書よこめさるに
 和琴にいとわうとさあつてこのふハ絶つるあ
 やり人あゝ又ふとおうなをさあすうとさあ
 とさうとさあやあゝ雄拍子とさうと拍子とさう
 をさうと僅馬樂とさうとさうとそれとさうと
 もとさうと人さうとさうと次々ハさうとさうと
 樂うとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

呂ハ安名高 新年式梅枝 美作席田樂ハ高

破急ハ破急律 柳 更夜万歳樂ハ不急

ハ其急ハ不やハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不

ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不

ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不

ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不

ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不

ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不

ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不

ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不ハ其急ハ不

八月よりあつ事ありせしころへさあを建保六年
 十二月七日東宮の御幸陽院殿へありしに五日やえ
 清み十日の御遊小柏より家敷といふさうさうと
 むとやれどもなとやんといふさうさうと
 大に大饗食ふにも御遊の儀式おぼしめしありし
 ともそれよりて母屋に大饗に御幸ふといふさうと
 屋よりやそれい源家よりありて家敷よりなと
 うしゆせしといふもなとやんといふさうと
 侍り又侍りも御幸ありて屋よりなと
 うしゆせしといふもなとやんといふさうと
 侍り又侍りも御幸ありて屋よりなと

御遊番

通のもしつとふまけ殿といふ御幸と
 かつめいとふとふまけ殿といふ御幸と

后宮に秋七秋にれもいとふとふまけ殿といふ御幸と
 二長慶子ありけるにいとふとふまけ殿といふ御幸と

時時あられいみじくして、さうたさうと
 才二歳楽これゆしと半とさういなり女房を

なうらにちうてもありへふこととらうへんえもそへ
 しあきてもあふくつう大嘗會大法多堂供養 同塔 常樂
 會放生會舍利會朝觀行幸内裡舞踊覽内宴内裏
 樂而始相撰節社頭供日等

大嘗會に和音ありといひの音成りてたう海たり
 といひ風俗ふふうして飲ありをほきう主飲の
 ふふふふとほきう徳紀主奏れ樂人系を作さうふく
 左右奏人ふひと作らんふふうやうれこふふふハ樂
 も氣をも新ありふふたりひくふはふふあひふんあり
 樂あり舞ありといふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふこれハ女房れふにいふてもあふふふふふ
 もあふふふふふの事もふふふふふふふふふふふふ
 紙く

大法會に又女房れふふふふふふふふふふふふふふ
 なるふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 屋に隨ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 へいたふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 ありふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 三切の礼ありふふふふふふふふふふふふふふふふ
 そふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

今れ終るゝ一ツ又供養れ終るゝとてこれらに
入調とてなりあて安樂二終るゝとて後の終に何とて
思ふに終る條付の終るゝとて終るゝとて終るゝとて
寺仁和れ舍利會醜砌機會に終るゝとて終るゝとて
終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
明觀の章に決定とて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
まゝの時いまだ終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
内裡れ終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
ありん終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
まゝも終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて

していつらあゝくゝと終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
と終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
中ニ式讀調ふれ終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
ハ終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
と終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
せむとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
は終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
は終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
は終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて
中ニ十種供養とて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて終るゝとて

廿五人小抱をうり半く今へうらまひあるよ
人いふあんなしにハアあんなものと云ふと一へは
こほえんをうたつ子細かき道ともわひあさうれは
ゆかりのやあらへるじとれらうひかり也らうと
うまあらは比巴よりてはひと一人の流るゝあそ
らもいま二つなれぬありたるは孝博がこれ
信綱
とらふ事かといふらんハ院祿の流れたやうせよと
信乃孫也たりといまは経信の流れたやうせよと
うらまたう。あつたなりとこれとあれあらうと
めろ孝博と比巴とハ風者個よくゆへうじたのみ

はまのうられを性なりたる海にうへおせよ此巴川
 もくわてわたり要に至る人ありあはれ
 り公家の清遊のきこりなり波まひゆく功をいねん
 との儀よくつくりいまとも種あるものの不作も
 めしたうめ給ふにさるべきしゆ事ありとく
 人のふとらぬ事也ぬらんよきことひてば
 らひて物をも秘藏としこれいかにあや^主
 まきにあらへり又物ぞしらめて後さるあ
 りをいかにあらくぞへんたまたやくとともそ人
 といふあはれはめをもちてけり事なり

うられ七郎と申比巴と申比巴と申と申の
いさうあつてこのえいふと申と申と申と申と申
我日と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
かよ申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
さよわ物と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
れよなりと申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
なと申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
武者と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
んあつて申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
敵いよと申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申

又日貧窮しと申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
いさうと申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
物をと申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
さよわ物と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
あつて

才七調子と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
あつてと申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
それと申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申
と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申と申

よりあるに略頌ふと下一雙涉還雙調平大同
音上黃鐘又云雙調平調上黃鐘下一雙涉還
雙調と云ふ双調より平調より又平調より上
无調より又上无調より黃鐘調より又上黃鐘調
より下无調より又下无調より一絃調より又
五絃調より盤渉調より又盤渉調より双調より
又平調よりとありこれら第一のうらみ半めく
うのうのうのうのうのうのうのうのうのうの
ハあゝぬたりこの中に雙調と平調と有り
うのうのうのうのうのうのうのうのうのうの

拍子にひく物と云ふ時の事こそあつたを
にゆくであく高きものやゆきよくこころを
見てまわしうとありあけいづこも平へ
ちの節初拍より筆の後筆葉をゆきて後
比巴は引合ひ比巴のら筆をあつてさなり
吹物といふも上り下りといふはこの定地引
物ハ比巴の後そ筆ハ引へる事もこと引上りな
らしまるゝ引合ひさきとすれども相対する人
ならぬとあらうといふ者久しく人とすべからざる
ありともあらずあやむべき比巴志しうある

さうめいつめえを筆の引物とゆへかたよひあ
らて人へれを歌ふなり舞入て人へ入て
あさめいりやんあー筆舞をいふはやめあつ物
なまはつとともさくねよはまゝいらもつゝと
それもとよにさうてのもめさくとのんをさくのを
さくねとひぬとりにてあつるに歌人とやら
うんねよーや筆もむりい吹物とまりてもさあ
まふとに目をつきけれかともえとあさーい
さくねとひぬとりにてあつるに歌人とやら
ありあつとひい人ともさく人いささかをさく

ありえともありー

第九番事いふと調子のうつにをかくさく
さくともさくさくかあへられみらありまつ十二律あり
さくさくさくさく地のあつにさく十二ありこれとひ
黄鐘と呂大族夷鐘活況中呂鍾賓林鐘夷則南呂
蕤賓夷鐘といふ黄鐘ハ一絃調大族と平調大呂と
一絃調と平調とありあつる也活況ハ平無調夷鐘
と平調とハ先調とあり也中呂と雙調林鐘と黄
鐘調南呂ハ盤渉調蕤賓と上先調とありあり
りたるハさあひれとさくさくさくさくさくさく

ことごとくして成るに於て授南かとのやうに到くと何
 ら彼らハ法也と云くおろしきと實然もあさるなり
 中めくまのなをうゝは天王寺樂人乃中よりいふとさ
 て公定より流るゝ藤合之帖と二□
 是事あり
 あたり骨田振子と申す拍子これあらひうりつへん也ヤウ
 揚志操をもけり事には事と壽尼公より流れて月海入
 道敬下作らばことごとくめむやとよても骨六の句あり
 とそつとこころで種大寺たれ公繼公繼即ち終る也
 初くとハ入爲敬にせられさやるともなる殿助
 とつれ一也秘曲などありといふひやうへつとく

たゞ一方聲ハ大鼓羯鼓の定とお相とハやま
 まいりにいれハ一の丁名ありに礼等付録砂等塩等
 常盤大羯鼓小羯鼓泉流等式白水帝とあり泉とありやより
白世帝ともあり是ら能くたかひのなる織綿等これら
 あり何とていへやいりの席ありにやう別の儀あり
 里よりやと席等この物五六あ帖二五六あ帖二ハ奥春鶯鴒島等奥春鶯鴒島等
 うけけのもの調ふれ同ハ又経等と砂等ハ換合二
 帖あり織綿等もふきにいり大羯鼓ハ換合席
 一帖あり付小羯鼓ハ急ふけり泉流等ハ破あり
 南都塩屋くりりつとていつてもたこのとハ

しとふねもばりくさささありおねとさねうこ
 おつきて中へくさくハ拍ふれ物もも屋とのひ
 あうに造るおねあり又ほ拍ふものひさすりにやあ
 り又甲んせらけりけりやうゆへ女房よりへけりハ
 中さしたふくにさうひておねあきともうけり
 とだき拍ふのくねとささありこれハ人さしは
 外の古樂新樂大曲中曲小曲礼等これハ大鼓のあり麻機荒席これハ大鼓のあり
 青席礼席安座よりとさうけりけりけりへけり
 鼓ハ新樂よりにおね也大鼓はくけりけりけり
 ひとねけりけりけりけりけりけりけりけり

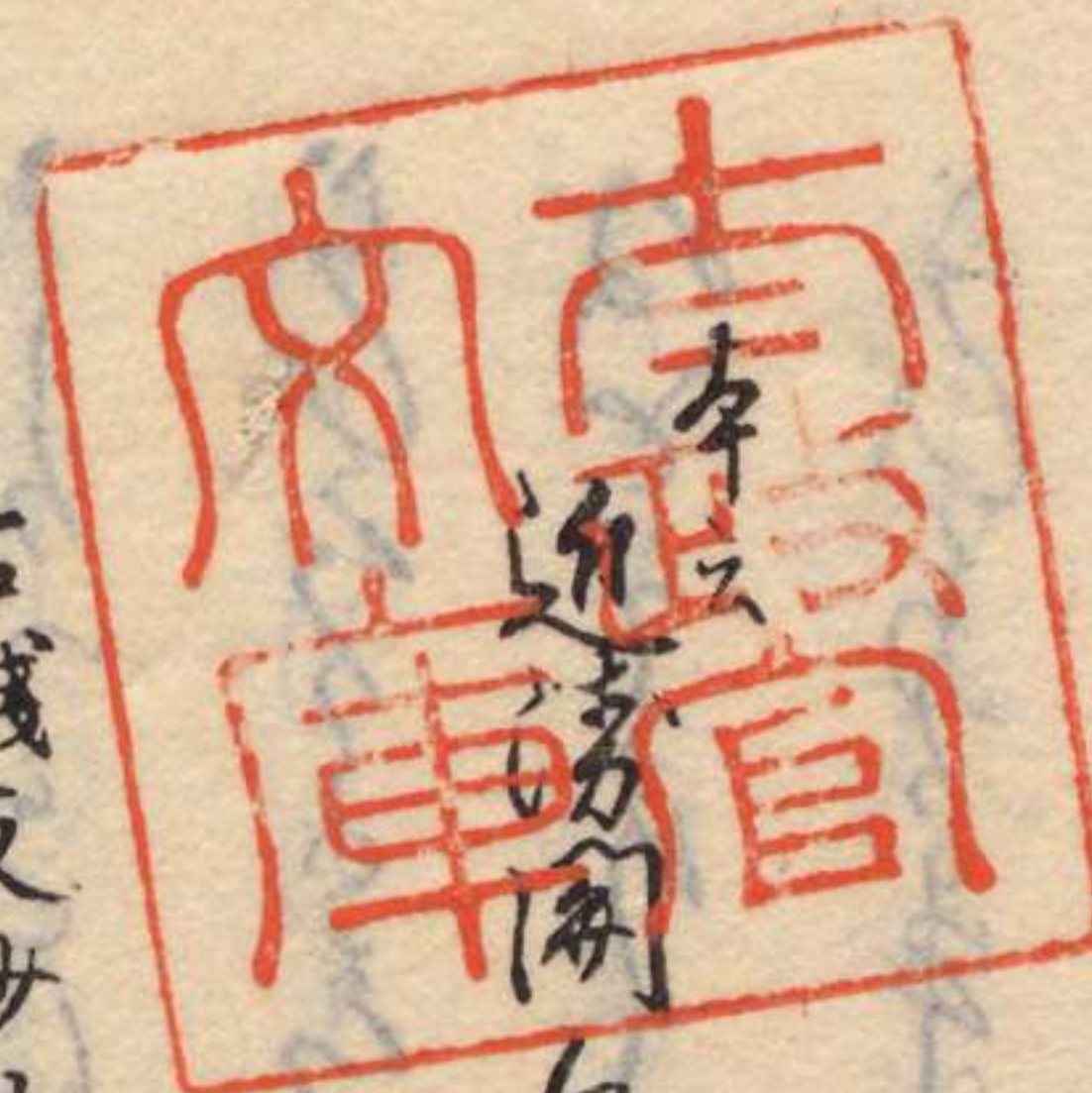
女房れきよひとくへういさうかうせうくやう
ふくいにうくあくや新樂あひ二夜拍子にあく
是あひ八拍子拍のーつふらうふらうしれる也八拍子
物と古茶に二夜拍子にあく半あきとも新樂とが
こしらうるのハ新 但参る聲にいれあふて病人を
こぞつこてとく時新樂とも古茶あつたあつ様事
ハ古樂あはれも二夜拍子うらうハ虎看とおひやと
うあくのうらうーくのうらうこわは拍子あつた一拍子に
あくらに二夜拍子にあくもれあつとれハんさう物
こころ古樂の二拍子あつたとおひや

中十二樂あはれも茶茶ハハのーかあり今ハ縁味
飽去草本あり金のうらに又かーかれあつたハ世
たふらう物もあきハあふとのふとえとふいこら
をゆやうー一よと鐘こたつこたつとむじりー是
らいさうさうあつた二あつたをけうーや
えとありとらけいさう新ハ本文も用あー二あ
種こたつこたつこたつとあつたやうにありと
こハ二拍子あつたこたつたのうらとあつたをけうと
こばらぬさうたうさうこたつたえとあつたこたつ
文ハ二拍子あつたもあつたこたつたこたつたこたつた

読これハ真玄供養にうつぬうららこつハ物のあり
その文字も同如き事とこにいあらはれしなること
こゝにけりけりけりけりけりけりけりけりけり
あつめやまにけりけりけりけりけりけりけり
勢と用やうにけりけりけりけりけりけりけり
とあつめハ此勢にあつことけりけりけりけり
くろくもれととあつことけりけりけりけり
はあつめととあつことけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけり
あつめととあつことけりけりけりけり
あつめととあつことけりけりけりけり

なうととあつことけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけり
文の結武の結もけりけりけりけり
つととあつことけりけりけりけり
ととあつことけりけりけりけり
やうととあつことけりけりけり
ととあつことけりけりけりけり
第一これけりけりけりけり
中文ハけりけりけりけり
いつととあつことけりけりけり

ゆきしつらんめにくらとひくさひつへーあふを
女房ハカひめん車とたこにわひしあふまへへ
らじ車と能くふあふへーとれハチさるもうーあ
あうーいひとよ



右残夜抄以一本校合了

萬葉書類後卷第三百四十七

